

研究」(平成23～25年度),「長寿化・高齢化の総合的分析及びそれらが社会保障等の経済社会構造に及ぼす人口学的影響に関する研究」(平成26～28年度),「長寿革命に係る人口学的観点からの総合的研究」(平成29～31年度)の一環として,構築・提供してきたところである。

そのHMDの成果報告及び今後の課題と展望を探るための国際ワークショップが2019年10月15日～10月17日の日程でオーストラリアの首都キャンベラにおいて開催された。HMDには現在のところ①死因別データ,②地域別(等の一国を細分化したグループの)データの整理収集と蓄積という2つの課題や方向性がある。この2つのうち前者を対象としたシンポジウムは2019年5月に開催されており,「第5回人類死亡データベースシンポジウム」(林玲子記『人口問題研究』第75巻第3号,2019年9月)に報告された通りである。そして,後者にフォーカスしたのが,今回の国際ワークショップである。なお,今回のワークショップは“Subnational”と題されており,必ずしも「地域」生命表を対象とするものではなく,一国の人口集団を細分化したグループの生命表に関するものであるものの,系統的なデータの入手可能性から「地域」がその中心であることからここでは便宜上「地域」の訳を用いた。

3日間の会期中に,7つの口頭報告セッションで行われた28報告を中心に,会議では「地域生命表の開発」「死亡推定」「小地域の死亡」「予測」「死亡モデルとその評価」「R言語によるプログラミングと新しい方向」といった地域別生命表に関連した話題が包括的に編成されており,いずれにおいても,欧州地域を中心とする約60名の間で,活発な研究交流が行われた。当研究所からは菅桂太(人口構造研究部室長)が参加し,“Japanese Regional Human Mortality Database: Current State and Challenges”(石井太慶應義塾大学教授,別府志海情報調査分析部室長との共同研究)について研究報告を行った。

本ワークショップの詳細はインターネット

(<https://demography.cass.anu.edu.au/events/international-workshop-subnational-life-tables>)
に掲載されている。(菅 桂太 記)

G20保健大臣会合サイドイベント アジア健康構想(AHWIN)フォーラム

2019年10月17日(木)午後,東京都中央区日本橋のマンダリン・オリエンタルホテルにて,G20保健大臣会合サイドイベント「AHWINフォーラムーアジアにおける高齢者ケアを描く:あるべき健康長寿社会とは」が開催され,筆者は第2セッションのモデレーターとして参加した。アジア健康構想(AHWIN)に関わる,アジア各国の高齢者介護担当者・専門家が集い,地域に根差した認知症予防,高齢者の健康の変遷,介護人材の確保といったテーマに関して報告,討議が行われた。フォーラムの内容は<https://www.ahwin.org/posts/ahwinforum-achievinghealthyaginginasia>に掲載されている。(林 玲子 記)

地理情報システム学会第28回研究発表大会

地理情報システム学会の第28回研究発表大会は2019年10月19・20日の日程で徳島大学常三島キャンパスにて開催された。一般口頭報告91報告,ポスター報告が65報告の他に,企画セッションが9テーマ,国際シンポジウムが4セッション,実際にGISの使い方を学ぶハンズオンセッションが5本,その他に機器展示があるなど多彩な企画による大会となった。本学会は,災害対応・防災,交通ネッ

トワーク、移動分析、医療アクセスなど主要なテーマの他に、地方自治体が保有する住民基本台帳や建物台帳、固定資産台帳を用いた個人単位のデータを利用した分析やGNSS（全球測位衛星システム）、衛星画像、ドローンや赤外線カメラを用いた分析など、公開されている公的データからでは得られないデータを収集・利用した課題解決に関する報告が多くあり大変興味深いものであった。人口分野では、世帯単位で将来の人口分布の予測を行うシミュレーション分析や東京圏における就業者と世帯規模の関係、東京一極集中による人口重心の変動に関する分析があった。

当研究所からは筆者が参加し、社人研が平成30年に公表した地域別将来推計人口の将来の人口成長率に対する各要因の寄与を分析した「地域別にみた将来の人口成長率に対する人口動態率及び人口モメンタムの寄与の分析」についてポスター報告を行った。（鎌田健司記）

南部アメリカ人口学会2019年大会

南部アメリカ人口学会（Southern Demographic Association）は2019年10月23日（水）から25日（金）にかけてアメリカのルイジアナ州ニューオーリンズで年次大会を開催した。本年の大会では30セッションが企画され、著者は大会2日目のポスターセッションにて“The Change of the Number of Households vs. the Change of Energy Usage: Focused on the Energy Consumption Change of Elderly Households in Japan”を発表した。来年2020年は米国の国勢調査実施年ということもあり、例年よりも国勢調査データを用いた研究や国勢調査に関する報告が多い印象を受けた。2020年の年次大会は10月14日（水）から16日（金）にかけてアメリカのテネシー州ノックスビルにて開催を予定している。なお、来年は南部アメリカ人口学会50周年である。（井上 希 記）

第11回国際老年学会・アジア／オセアニア大会

2019年10月23日～27日に、第11回国際老年学会・アジア／オセアニア大会（IAGG Asia/Oceania Regional Congress）が台北で開催された。今回の大会は「高齢化社会における健康と福祉：基礎科学から政策へ」と題され、日本をはじめ韓国・中国・台湾などアジア各国・地域を中心に多数の参加者があった。当研究所からは林玲子（国際関係部長）、小島克久（情報調査分析部長）、泉田信行（社会保障応用分析研究部長）、別府志海（情報調査分析部第2室長）黒田有志弥（社会保障基礎理論研究部第2室長）の5名が参加した。なお、アジア／オセアニア大会は4年に一度の開催であり、次回大会は2023年に横浜で開催される予定である。

参加者の報告タイトルは以下のとおり。

【口頭発表】

「Dementia Related Deaths in Japan - A Multiple Causes of Death Data Analysis」林玲子

【ポスター発表】

「Dying Alone in Japan: Results from Analysis on Data on "Persons Who Died on Journey"」

泉田信行

「Model Analysis of Long-Term Care Cost Expenditure by the Elderly Private Household in Japan - Governmental Survey Micro Data Analysis」小島克久

「A Demographic Analysis of Healthy Life Years in Relation between Diseases and Subjective Health: 2001, 2013」別府志海